

ISSN 1882-0468

ISSN-L 1882-0468

# NDL 書誌情報ニュースレター

2015 年 2 号(通号 33 号)

## 目次

Linked Open Data—欧米国立図書館の動向と国立国会図書館の取組み (電子情報部 電子情報流通課 橋詰秋子)	1
典拠データの拡充を進めています—新展開 2013 に基づく取組みから (収集・書誌調整課 柴田洋子)	4
コラム:書誌データ利活用(7) —Web NDL Authorities 解説講座 その 2—いろいろ探せる SPARQL(スパークル) (収集・書誌調整課 柴田洋子)	7
コラム:おおきなほんのはなし (国内資料課 古賀香織)	17
お知らせ:全国書誌データ・レファレンス協同データベース利活用研修会を開催します (収集・書誌調整課)	19
お知らせ:書誌データ水準を公表しました (収集・書誌調整課)	21
お知らせ:平成 26 年度書誌調整連絡会議の概要を掲載しました (収集・書誌調整課)	22
お知らせ:ISSN 日本センターが ROAD への登録作業を開始しました (収集・書誌調整課)	23
お知らせ:平成 26 年度書誌データ統計を掲載しました (収集・書誌調整課)	24
掲載情報紹介	25

## Linked Open Data—欧米国立図書館の動向と国立国会図書館の取組み

### 【はじめに】

最近、図書館関連のニュースで“Linked Open Data (LOD)”という言葉をよく目にします。そうしたニュースでは、欧米の図書館は自館の書誌データや各種コード類を LOD 化するなど、LOD に積極的に取り組んでいる様子がうかがえます。国立国会図書館 (NDL) でも、LOD の提供と利活用の促進を行っています。ここでは、LOD について、先駆的な欧米国立図書館の動向と NDL の取組みをご紹介します。

### 【LOD とは】

LOD とは、“Open Data” で提供されている“Linked Data” のことです。

Open Data とは、単に公開された情報というのではなく、「コンピュータ処理に適したデータ形式」で「二次利用 (再利用・再配布) が可能なルールで公開」されたデータを指します。近年進められている「オープンガバメント」(行政活動の透明性を高め、行政への市民参加を促進する動き)の一環として、公共機関が保有する情報を Open Data として公開する動きが、欧米を中心に広がっています。日本でも、2012年7月に策定された「[電子行政オープンデータ戦略](#)」に基づき、政府が保有するデータの Open Data 化が進められています[1]。Open Data は、行政の透明性を高めるだけでなく、再利用による新たな価値の創出を期待して公開されるものです。その利活用を進めるさまざまな取組みとして、ディスカッションを通じてアイデアを練る「アイデアソン」、短期間でアプリケーションソフトを開発する「ハッカソン」などのワークショップや、Open Data を使ったアプリケーションソフトの開発コンテストが、国内各地で開催されています。

一方、Linked Data とは、URI (Uniform Resource Identifier) が付与され、他のデータとリンク付けられた形でウェブ公開されたデータおよびそうしたデータを実現させる仕組みを指します。RDF (Resource Description Framework) をはじめとするセマンティックウェブの標準技術 (データの意味を記述したタグとセットにして伝達する技術) に基づいて作成され、HTML 形式等のデータと比べて他のデータとつなげやすく、幅広い分野のシステムで活用しやすいという利点があります[2]。特定分野の規格やデータ形式に依存しない Linked Data は、分野を超えた再利用性が高いため、Open Data の望ましいデータ形式とされています[3]。Linked Data を活用した事例に、オランダ王立図書館が開発したスマートフォン用アプリ「[Hier was het nieuws \(Here was the news\)](#)」があります。これは、Linked Data 化した自館の歴史的な新聞記事データを既存の地図データと結び付けることで、アプリの利用者が今いる場所で過去にどんな事件があったのか、関連する記事を検索できるようにしています[4]。

### 【欧米国立図書館の動向】

近年、自館が持つ各種データを LOD で提供する図書館が増えています。特に、欧米国立図書館では、LOD という言葉を冠した事業やサービスを行うところが目立ちます[5]。以下でご紹介するような事例を見ると、欧州 (EU 各国) と米国では、LOD に取り組む背景 (理由) において、相違があることに気づきます[6]。

欧州 (EU 各国) の例としては、まず、英国図書館の“[Linked Open BNB](#)”があります。これは英国全国書誌約 280 万レコードを LOD で提供するサービスです[7]。また、フランス国立図書館は、専用の Open Data ポータルサイト“[data.bnf.fr](#)”を設置し、蔵書目録の書誌データと典拠データ、電子図書館 Gallica のメタデータを LOD で公開しています[8]。ほかにもドイツやスペインの国立図書館では、既存の目録データを LOD に変換し提供しています。こうした国立図書館の取組みの背景には、EU の欧州委員会が進める公的機関情報の公開・再利用を促進する施策

があると考えられます。EU の Open Data 施策は、「公的機関情報の再利用に関する EU 指令(2003 年)」から検討が始まり、EU 各国においては 2009 年頃から急速に、図書館を含む公共機関が保有するデータの Open Data 化が進展しました。たとえば、前述の “data.bnf.fr” は、開発プロジェクトが 2009 年から開始されており(提供開始は 2011 年)、またサイト上には、このポータルサイトが上記の施策の一環である旨の説明が見られます。

一方、米国では、米国議会図書館(LC)が先駆的に活動していますが、その中心は、欧州のような既存の目録データの LOD 変換よりも、各種コード類と典拠データの LOD での提供です。LC では、米国議会図書館件名標目表、LC 名称典拠ファイル、米国議会図書館分類表等の約 40 種類を “[LC Linked Data Service](#)” で提供しています[9]。この取組みの背景の一つには、LC 主導で開発が進められている “BIBFRAME” があると考えられます。BIBFRAME は、現在の国際標準である MARC21 に代わるデータフォーマットの一種ですが、そのデータモデルの基盤に Linked Data を採用しています[10]。各種コード類や典拠データの LOD は、目録データを Linked Open データの形式で作成する場面で、語彙(ボキャブラリー)として使用できます。つまり、LC の取組みは、目録データの中で使われている各種コード類や典拠データを BIBFRAME で適切に扱うための語彙の開発(URI 化)を意図しているともいえます。実際、「2012 年に公開された BIBFRAME の仕様草案が LC の LOD の使用を想定したものになっている」と指摘した文献[11]もあります。

## 【NDL の取組み】

現在、NDL では、[オンライン・サービスで次のデータを LOD で提供](#)しています。

- ①書誌データ ([国立国会図書館サーチ](#))
- ②典拠データ ([国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス : Web NDL Authorities](#))
- ③震災関連データ ([国立国会図書館東日本大震災アーカイブ](#))

どのデータも、外部提供インタフェース(API)を提供し、機械アクセスによるダウンロードが可能です。②典拠データについては、API だけでなく、[「国立国会図書館件名標目表\(NDLSH\)」](#)の収録範囲の一括ダウンロード用ファイルも提供しています。利用条件はデータにより異なりますので、詳しくはホームページ「[使う・つなげる : 国立国会図書館の LOD を使う](#)」をご覧ください。

NDL が提供する LOD やその他の形式のデータの利活用促進を目指して、2015 年 1 月、「[オープンデータセット](#)」のページを公開しました。このページでは、諸手続なしで自由に利用できるデータを提供しており、[国立国会図書館デジタルコレクション](#)の書誌情報(図書・雑誌・古典籍の原資料のタイトル、著者名、出版者等の基本的な書誌項目)のデータセットが xlsx または tsv の形式でダウンロードできます(Linked Data 形式ではありません)。また、同年 4 月から、図書館をはじめ博物館、美術館、文書館などの類縁機関に付与される ID である「[図書館及び関連組織のための国際標準識別子\(ISIL\)](#)」[12]を [LOD 化し、試行提供](#)しています。さらに、2015 年 4 月から 2016 年 3 月まで、[日本十進分類法の Linked Data 化に関する研究を日本図書館協会と共同で実施](#)するなど、語彙の開発にも取り組んでいます。

また、NDL が提供するデータの認知度を高め、幅広い分野での利活用促進のため、オープンなデータ作りとデータ活用に関する取組みを表彰するコンテスト「Linked Open Data チャレンジ」に、2013 年からデータ提供パートナーとして参加しています。さらに、Open Data のイベントも実施しており、2015 年 2 月には、「[国立国会図書館のウェブページを使い尽くそうアイデアソン～NDL オープンデータ・ワークショップ～](#)」と題して、NDL が提供するデータの利活用に関するアイデアを探るアイデアソンを開催しました。

## 【おわりに】

LOD は、セマンティックウェブという未来のウェブにつながる潮流です。図書館による LOD の取組みは、未来のウェブ世界において、図書館が保有するデータを分野を超えて利活用できるようにすることであり、図書館や図書館サービスの有用性をウェブ世界で広く認識してもらうきっかけになると考えられます。NDL では、今後も、欧米国立図書館の動向も参考にしながら、LOD の提供と利活用の促進に取り組んでいきたいと考えています。

橋詰 秋子

(はしづめ あきこ 電子情報部 電子情報流通課)

[1] 総務省. “オープンデータ戦略の推進”. [http://www.soumu.go.jp/menu\\_seisaku/ictseisaku/ictriyou/opendata/](http://www.soumu.go.jp/menu_seisaku/ictseisaku/ictriyou/opendata/), (参照 2015-04-28).

[2] URI、RDF の詳細は、本誌 2015 年 1 号のコラムをご覧ください。

・柴田洋子. コラム：書誌データ利活用(6)—Web NDL Authorities 解説講座 その1—ウェブでつながる典拠データ. [http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo\\_9103524\\_po\\_2015\\_1.pdf?contentNo=1#page=15](http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_9103524_po_2015_1.pdf?contentNo=1#page=15), (参照 2015-06-24).

なお、本稿において、「URI」は URI を拡張した国際化識別子「IRI (Internationalized Resource Identifier)」とほぼ同義に使っています。

[3] 5 つ星オープンデータ. <http://5stardata.info/ja/>, (参照 2015-04-28).

[4] Koninklijke Bibliotheek. “Hier was het nieuws”. <http://www.hierwashetnieuws.nlh>, (参照 2015-05-26).

[5] LOD として提供されているデータには、1. 書誌データ、2. 典拠データ、3. 各種コード類(分類表等)、4. デジタル化された本文テキストがあります。本稿では、本誌の対象(書誌情報)に関係が深いデータ(1、2、3)の事例を取り上げて紹介します。

[6] 取組みの背景については、以下の文献に詳しい記載があります。

・橋詰秋子. なぜ図書館は Linked Data に取り組むのか—欧米の事例から. 情報管理. 2015, Vol. 58, No. 2, p. 127-134, <http://doi.org/10.1241/johokanri.58.127>, (参照 2015-06-04).

[7] British Library. “Linked Open BNB”. <http://www.bl.uk/bibliographic/datafree.html#lod>, (参照 2015-04-28).

[8] Bibliothèque nationale de France. data.bnf.fr. <http://data.bnf.fr>, (参照 2015-04-28).

[9] Library of Congress. “LC Linked Data Service”. <http://id.loc.gov>, (参照 2015-04-28).

[10] RDA と BIBFRAME の詳細は、以下の文献をご覧ください。

・柴田洋子. ウェブで広がる図書館のメタデータを目指して—RDA と BIBFRAME. カレントアウェアネス. 2014, (322), p. 17-21, <http://current.ndl.go.jp/cal837>, (参照 2015-04-28).

[11] Mitchel, E.T. Three Case Studies in Linked Open Data. Library Technology Reports. Vol. 49, No. 5, 2013, p. 26.

なお、BIBFRAME の仕様書草案は、2014 年 4 月に提示されたものが現時点(2015 年 5 月)の最新版です。

[12] ISIL は、ISO 15511 で国際標準規格として定められており、日本では、国立国会図書館が国内登録機関となり、2011 年から国内の ISIL 付与および管理を行っています。

## 典拠データの拡充を進めています—新展開 2013 に基づく取組みから

[本誌 2013 年 2 号\(通号 25 号\)](#)でお知らせしましたとおり、国立国会図書館では、「[国立国会図書館の書誌データ作成・提供の新展開\(2013\)](#)」(新展開 2013)の具体的な実施に向けて取組みを進めています。その一つとして「典拠等の拡充」を掲げ、信頼性および効率性の高い検索に資するよう、また、ウェブ環境でデータ間のリンクを支える仕組みとして活用されるよう、典拠データの内容の充実、リンクする書誌の範囲の拡大等に力を入れてきました。[外国刊行図書の日本人著者について典拠リンク開始](#)、[録音・映像資料\(クラシック音楽\)の著者標目の採用数拡大](#) および [地図資料へのNDLSHの付与開始](#) については、それぞれすでに本誌でお知らせしてきましたが、2015年4月までに開始したその他の取組みについて、まとめてご紹介します。

### ▶ 児童書に付与された件名をダウンロードできるようになりました。

児童書に付与された件名は、これまで、NDL-OPAC および国立国会図書館サーチの各書誌情報画面に表示されるのみでした[1]。そのため、学校図書館や公共図書館等からは、自館のシステムで検索等に利用できる形式による児童書の件名の提供を望む声が寄せられていました。そこで、2015年4月以降に作成した国内刊行児童書の書誌データに付与された非統制件名を、NDL-OPAC のダウンロード機能や国立国会図書館サーチの API を利用して取得できるようにしました[2]。

### ▶ 日本人・日本団体著者名典拠に、日本語以外の言語で表記された参照形を追記する作業を始めました。

外国刊行資料の書誌データを作成する際、著者が日本人または日本の団体であれば、資料に表示されている日本語以外の著者名表記を典拠データの参照形に追加する作業を開始しました。たとえば、[典拠データ「湯本, 香樹実, 1959-」](#)の参照形には、「Ю м о т о , К а д з у м и」(ロシア語)や「Jumotová, Kazumi」(チェコ語)といった別名を記録しています(図 1)。このようにさまざまな言語で表記された情報が蓄積されることで、検索の手がかりが増え、資料の識別やアクセスの可能性が広がります。

湯本, 香樹実, 1959-	
ID	00220662
標目 (xl:prefLabel)	<small>ユモト, カズミ, 1959-</small> 湯本, 香樹実, 1959-
別名(を見よ参照) (xl:altLabel)	<small>ユモト, カズミ, Ю м о т о , К а д з у м и</small> ゆもと, かずみ; Ю м о т о , К а д з у м и; Jumotová, Kazumi
生年 (rda:dateOfBirth)	1959
関連リンク/出典 (skos:exactMatch)	<a href="#">NDL 00220662</a> (VIAF)
出典 (dct:source)	夏の庭 奥付(本文・カバーを含む)

図 1 ロシア語やチェコ語が追記されている例(Web NDL Authorities の詳細表示画面)

▶ 外国刊行図書の外国人・外国団体の著者について典拠リンクを開始しました。

外国刊行図書のうち、日本人著者の既存典拠データへのリンクは、[本誌 2012年3号\(通号22号\)](#)でお知らせしたとおり、2012年8月から実施しています。2015年4月からは、外国人著者(一部、団体著者も含まれます)についても既存典拠データへのリンクを開始しました。

これにより、たとえば、NDL-OPACの書誌情報画面から、著者標目のリンク検索を通じて、その資料と同じ著者をもつ資料を再検索した際、リンク作業を終えた外国刊行図書も検索結果に含まれるようになります(図2)。今後もリンク作業を進め、外国人著者の典拠データから検索できる図書を順次増やしていく予定です。

資料種別 図書  
 請求記号 Y18-N15-L75  
 タイトル [うさこちゃんのたんじょうび /](#)  
 タイトルよみ ウサコちゃん ノ タンジョウビ.  
 責任表示 ディック・ブルーナ ぶん/え; いしいもこ やく.  
 版表示 60周年記念特別版  
 出版事項 東京: 福音館書店, 2015.4.  
 形態/付属資料 [28p]; 26cm.  
 注記 原タイトル: het feest van nijntje.  
 ISBN 978-4-8340-8173-2 :  
 価格等 1500円  
 全国書誌番号 22555139  
 他MARC番号 (JP-TOTOH)33252476  
**個人著者標目 [Bruna, Dick, 1927-](#)**  
 石井, 桃子, 1907-2008 || イシイ, モチ子  
 NDLC [Y18](#)  
 NDC(9) [726.6](#)  
 他タイトル het feest v  
 本文の言語 jpn  
 原文の言語 dut  
 国名コード ja  
 書誌ID 026287683

リンク検索

この著者を持つ他の資料を検索する。

著者: Bruna, Dick, 1927-

実行

71		Een fluit voor Nijntje / Dick Bruna. -- 4th ed.		Mercis Pub.,	2006.		Y17-B941 1	全館の所蔵 子ども:資料室(1/0) <a href="#">おはなしがた</a>
72		Hangoor / Dick Bruna. -- 1st. ed.		Mercis,	2006.	Dick Bruna k inderboeken ; 116	Y17-B832 3	全館の所蔵 子ども:資料室(1/0) <a href="#">おはなしがた</a>
73		Nijntje in Iullekkerland / Dick Bruna. -- 5th ed.		Mercis Pub.,	2006.		Y17-B941 2	全館の所蔵 子ども:資料室(1/0) <a href="#">おはなしがた</a>
74		おおきいちいさい	ディック・ブルーナ 絵; 村田さち子 文.	講談社,	2006.1 0.	ブルーナの おはなしちえ あそびミニ	Y18-N07- H184	全館の所蔵 子ども:資料室(1/0) <a href="#">おはなしがた</a>
75		ミッフィーのまじめがね	ディック・ブルーナ 絵; 村田さち子 文.	講談社,	2006.1 0.	ブルーナの おはなしちえ あそびミニ	Y18-N07- H152	全館の所蔵 子ども:資料室(1/0) <a href="#">おはなしがた</a>

図 2 ディック・ブルーナの日本で刊行された絵本から、オランダで刊行された絵本も検索できる例(NDL-OPACの書誌情報画面～リンク検索～検索結果一覧画面)

また、[国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス\(Web NDL Authorities\)](#)で外国人名または外国団体名の典拠データを検索すると、その検索結果からさらに国立国会図書館サーチを著者名によって検索することができます。この場合の検索結果にも国内刊行図書と合わせて外国刊行図書の一部が含まれます。

➤ **個人名典拠に故人の生没年を追加する作業も行っています。**

当館の所蔵資料で判明した著者等の生没年を個人名典拠に追加する作業も、積極的に行っています。著者等の生没年は、同名異人の区別や著作権保護期間の確認に役立ちます。

これらの取組みひとつひとつはとても細やかで、目に見える形での効果は実感しにくいかもしれませんが。典拠データは、縁の下の力持ちのような存在です。その成果は、各サービスの検索対象の拡大や検索結果の精度向上、各種データの内容の充実へと確実に繋がっていきます。今後も、資料へのアクセス可能性を広げるとともに、利活用しやすい典拠データを提供できるよう、着実に取組みを進めていきます。

柴田 洋子

(しばた ようこ 収集・書誌調整課)

[1] 今まで表示できなかった NDL-OPAC の書誌情報画面(MARC タグ形式)でも、2015年4月以降、新たに付与された件名が、[「653 非統制件名」フィールド](#)の値として表示されるようになりました。

[2] 各サービスの利用方法については、下記をご覧ください。

- ・NDL-OPAC でダウンロードする

[http://www.ndl.go.jp/jp/data/data\\_service/index.html#OPAC](http://www.ndl.go.jp/jp/data/data_service/index.html#OPAC), (参照 2015-06-24).

- ・国立国会図書館サーチの API を利用する

<http://iss.ndl.go.jp/information/api/riyou/>, (参照 2015-4-30).

## コラム:書誌データ利活用(7)

### —Web NDL Authorities 解説講座 その2 —いろいろ探せる SPARQL(スパークル)

#### 【はじめに】

本誌 2015 年 1 号(通号 32 号)のコラムでは、「[国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス\(Web NDL Authorities\)](#)」で用いられている、Linked Data に必要な技術や要素についてご説明しました。今回は、Web NDL Authorities の典拠データを、コンピュータ言語 SPARQL を使って検索する方法をご紹介します。SPARQL を利用すると、Linked Data に対し、柔軟性の高い検索が実現できます。現在の [Web NDL Authorities の検索画面](#) では、キーワードと分類記号からしか検索できませんが、SPARQL を利用すると、いろいろな検索条件を指定できます。また、典拠データの中で自分が必要とする項目だけを抽出したり、検索結果をさまざまな形式で取得したりすることができます。

#### 【SPARQL とは】

SPARQL は、“SPARQL Protocol and RDF Query Language”の略で、「スパークル」と呼ばれています。RDF(Resource Description Framework)で記述されたデータの検索や操作を行うためのコンピュータ言語(RDF クエリ言語[1])の一種であり、ウェブの世界の標準です [2]。

SPARQL では、RDF グラフの中で検索したいパターンをクエリとして表し、データを取得することができます。これにより、さまざまな条件でデータを検索できます。

[前回](#)のおさらいになりますが、RDF は、リソースの関係を主語(Subject)、述語(Property)、目的語(Object)の三つの要素(トリプル)で表現します(図 1)。

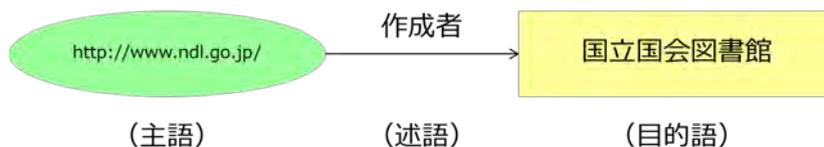


図 1 RDF グラフの例

トリプルは RDF を表現する基本的な単位となり、共通の主語や目的語を介してどんどんつながることができます。図 2 のように、あるトリプル(青枠)の主語に当たるリソースが、別のトリプル(赤枠)では目的語として関連付けられる場合もあります。RDF グラフは、このトリプルの一組以上の集合で構成されています。

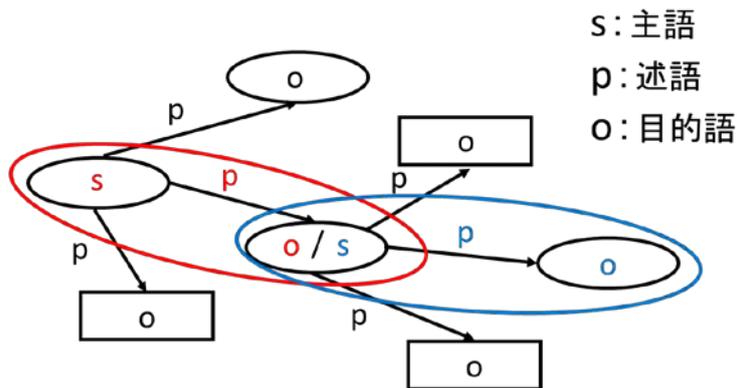


図 2 RDF グラフの例(トリプルの集合)

Web NDL Authorities も RDF モデルを採用しているため、典拠データが RDF グラフで表現されています。そこで、SPARQL により取得したいグラフのパターンを指定することで、当てはまるパターンのグラフを取り出すことができます。言いかえると、検索条件にマッチする RDF トリプルがあるかどうかをデータベースに問い合わせ、マッチする RDF トリプルを返してもらう仕組みです(図 3)。

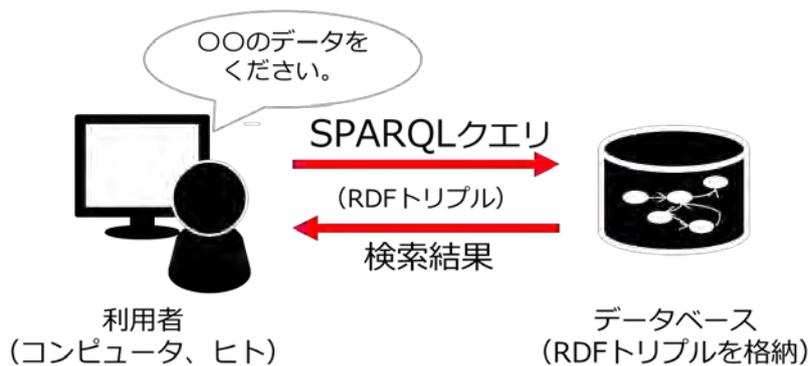


図 3 SPARQL クエリのイメージ

**【基本的な SPARQL のクエリ】**

SPARQL1.0[3]には、データを取得するためのクエリ形式が 4 種類あります(表 1)。

表 1 基本的なクエリ

SELECT	グラフパターンにマッチする値の組合せを取得する
ASK	グラフパターンにマッチするものがあるかどうかを調べる
DESCRIBE	リソースに関する説明(グラフ)を取得する
CONSTRUCT	新しいグラフを作成して取得する

このうち、Web NDL Authorities の典拠データを検索する際によく使う「SELECT」についてご説明します。

【クエリの基本構造】

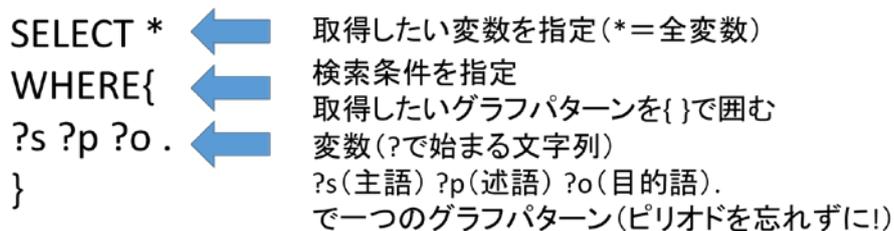


図 4 クエリの基本構造

SPARQL によるクエリは、未知の部分を変数とした RDF グラフを記述し、変数にあてはまる URI や文字列を取得する形式になります[4]。つまり、RDF トリプルの主語、述語、目的語に当たる変数「?s」「?p」「?o」に、それぞれ語彙や値を入力することで、検索・取得したいグラフパターンを指定できます。ピリオドは、トリプルの終わりを示すため、重要です。複数の条件を指定したい場合は、取得したい複数のグラフパターンを半角並括弧 {} で囲みます。

図 4 のクエリは、主語「?s」、述語「?p」、目的語「?o」がすべて変数で、いずれの値も指定されていないため、あらゆるグラフパターンが該当します。したがって、図 5 のように対象となるデータベース内のすべてのデータ (RDF グラフの中のすべてのトリプル) を検索・取得することができます (赤枠)。そして、検索条件に特定の語彙や値を指定すれば、図 6 のように、そのパターンに該当するトリプル (赤枠) を取得できます。

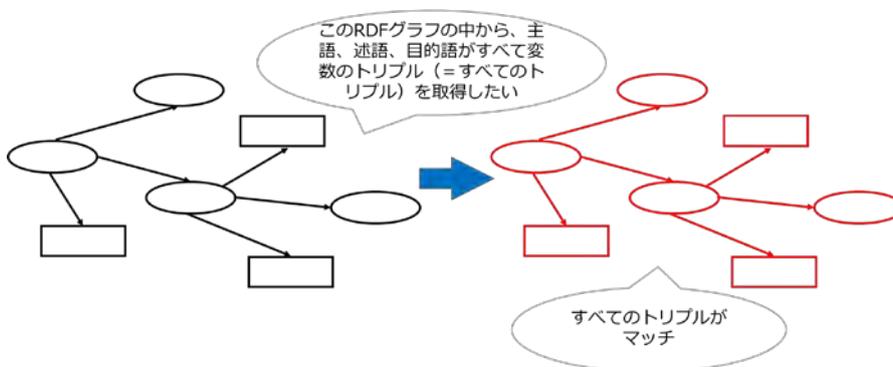


図 5 検索条件の主語、述語、目的語に変数を指定すると、すべてのグラフパターンを取得できる

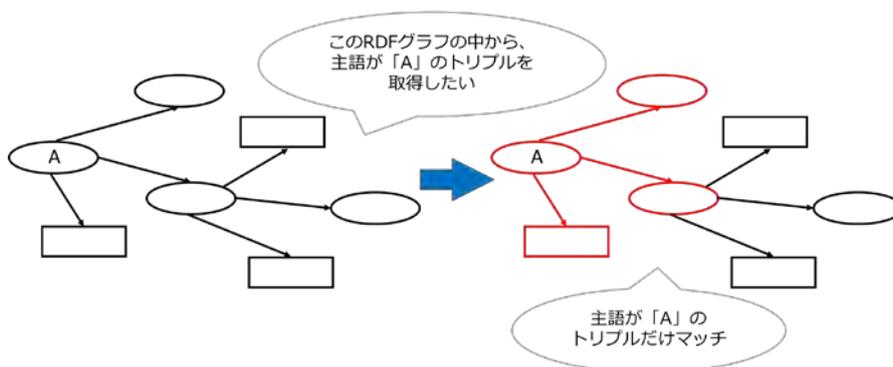


図 6 特定のグラフパターンを指定すると、マッチしたグラフパターンのみ取得できる

すべてのデータを取得するクエリは、初めて使うデータセットやサービスに対し、どのようなデータなのか、どのような語彙を使っているのか等を調べるために使うことができます。ただし、問い合わせ先のシステムの負荷を防ぐために、「LIMIT」を使って取得件数の上限を設定するのが一般的です。たとえば、「LIMIT」の値を100に設定した場合、検索結果が101件以上あったとしても、一度に取得できる結果は最大100件です。101件目以降の結果を取得したい場合は、「OFFSET」を合わせて使います。「OFFSET」を使うと、検索結果の先頭から指定した値までをスキップし、その次からデータを取得することができます。そこで、図7のように「OFFSET」の値を100に設定することで、101件目以降の結果から最大100件を取得できます[5]。

```
SELECT *
WHERE{
?s ?p ?o .
}
LIMIT 100
OFFSET 100
```

← 最大100件取得(検索結果の上限)

← 101件目から取得(先頭からスキップする件数)

図7 101件目以降の結果100件を取得するクエリ例

**【Web NDL Authorities で試してみる】**

➤ SPARQL エンドポイント

RDF トリプルが格納されたデータベース(図3参照)への SPARQL クエリを受け付ける場所(URI[6])を「SPARQL エンドポイント」と呼びます。Web NDL Authorities の SPARQL エンドポイントは、<http://id.ndl.go.jp/auth/ndla>です。この URI にパラメータを付与(条件を設定)して利用することができます。

Web NDL Authorities で対応するパラメータは表2の二つです。XML 形式の検索結果を取得したい場合、次のような形になります。

<http://id.ndl.go.jp/auth/ndla?query={URLエンコードしたクエリ}&output=xml>

表2 Web NDL Authorities で対応するパラメータ

パラメータ	値
query	SPARQLクエリを指定。 URLエンコード(URLで使用できない文字列を、使用できる文字列に変換)
output	データの出力形式(結果フォーマット)を指定。 値は、xml/json/turtle/htmltab/plain/php_serから選択。 *turtleは、一部のクエリでのみ指定可能

たとえば、標目が「図書館」である典拠データの URI を調べたい場合は、下記の URI を指定すると検索結果(<http://id.ndl.go.jp/auth/ndlsh/00573385>)が XML 形式で返ってきます[7]。

<http://id.ndl.go.jp/auth/ndla/?query=PREFIX+rdfs%3A+%3Chttp%3A%2F%2Fwww.w3.org%2F2000%2F01%2Frdf-schema%23%3ESELECT+%3Fs+WHERE+{%3Fs+rdfs%3Alabel+%27E5%9B%B3%E6%9B%B8%E9%A4%A8%27.%3D%0A&output=xml>

詳細は、「[Web NDL Authorities SPARQL API 仕様書\(第1.0版\)](#)」をご覧ください[8]。

➤ 「え、こんな複雑なクエリ、自分で作れない…」という方に朗報です：便利なフォーム

上記のように、自分でパラメータの設定や URL エンコーディングができなくても、ご安心ください。Web NDL Authorities では、もう少し簡単に SPARQL を使って検索できるように、便利な [フォーム](#) が用意されています(図8)。このフォームに SPARQL クエリを入力し、検索結果の出力形式を選択すれば、SPARQL による検索を試すことができます。



図 8 Web NDL Authorities で SPARQL による検索を試せるフォーム

とはいえ、最低限のクエリの作り方は知っておく必要はありますので、これから三つのクエリ例をご説明します。

例 1) 標目が「図書館」である典拠データの URI を調べたい

まずは「○○(主語)の△△(述語)は××(目的語)である。」というトリプルの基本的な表現に当てはめてみます。「図書館の URI は××である。」と表したいところですが、[前回のコラム](#)でご説明したとおり、主語「○○」は、文字列「図書館」ではなく URI で記述する必要があります。Web NDL Authorities の場合、主語「○○」が、典拠データの URI で表され、トリプルは「○○(典拠データの URI)の標目 (rdfs:label)は、『図書館』である。」と表現されます。主語「○○」に当たる典拠データの URI が、取得したい結果になります。典拠データの URI を変数「?s」とすると、この変数を含む RDF グラフは図 9 のように表せます[9]。



図 9 標目(rdfs:label)が「図書館」である典拠データの RDF グラフ

この RDF グラフをクエリにすると、図 10 のようになります。



図 10 例1のクエリ(解説付き)

クエリの中で、述語の URI を省略して表記するためには、先頭行で「PREFIX」を使います。図 10 では、「http://www.w3.org/2000/01/rdf-schema#」の代わりに「rdfs:」という接頭辞を使うことを定めています(赤枠)。つぎに「SELECT」に続けて検索結果として取得したい変数「?s」(典拠データの URI)を指定し(青枠)、最後に「WHERE」に続けて取得(検索)条件となるグラフパターン全体を半角並括弧 { } で囲みます(緑枠)。

このクエリを Web NDL Authorities の [フォーム](#) に実際に入力し、データの形式を選択して「検索」ボタンを押すと、[前述のクエリ](#) と同じ結果(<http://id.ndl.go.jp/auth/ndlsh/00573385>)が返ってきます([HTML Table\(表形式\)](#)、[XML](#)、[JSON](#)、[Plain](#)、[Serialized PHP](#)、[Turtle](#) の各形式で取得できます [10])。

## 例2) 「図書館」を含む標目とその典拠データの URI を調べたい

例1の応用編です。同様に、「○○の標目(rdfs:label)は、××である。」の形で表現でき、主語「○○」に当たる典拠データの URI が取得したい結果になります。目的語「××」の条件に該当する標目は、「国立国会図書館」「図書館法」「日本図書館協会」等さまざまなものが考えられます。そのため、例1のように目的語の値を一つに指定できません。

そこで、主語の「?s」だけでなく目的語にも変数「?o」を用い、「○○の標目(rdfs:label)は、××である。」に該当するトリプル(図11)を取得し、さらに条件(××に「図書館」を含む=文字列の部分一致)を設定して絞り込むクエリを記述します(図12)。



図 11 標目(rdfs:label)が変数「?o」である典拠データの RDF グラフ



図 12 例2のクエリ(解説付き)

基本的なクエリ構造は、例1と同様です。取得するトリプルの条件を絞り込むためには、「FILTER」と「regex」を使います。「regex」は正規表現[11]による検索ができ、「FILTER」と組み合わせて利用します。絞り込みの条件を変えたり、複数の条件を設定することで、さまざまな検索ができます。なお、例2のように、部分一致検索等により検索結果の件数の規模が予測できない場合は、問い合わせ先のシステムの負荷を考慮し、前述の「LIMIT」を使って最大取得件数をあらかじめ設定しておくのが一般的です。

このクエリの結果は、Web NDL Authorities の [フォーム](#) で実際に試してみてください。

### 例3) 没後100年の著者名とその典拠データのURIを調べたい

たとえば、現在が2015年であれば、没年が1915年の著者を検索するためのクエリを考える必要があります。[前回のコラム](#)でご説明しましたが、個人名典拠には、典拠データを維持管理するための情報(典拠情報)と、その典拠の記述対象となる実在の人物や場所等(名称実体)の2種類のURIがあります。そのため、件名典拠よりもグラフの構成が複雑です。そこで、先にRDFグラフをご紹介します[12]。

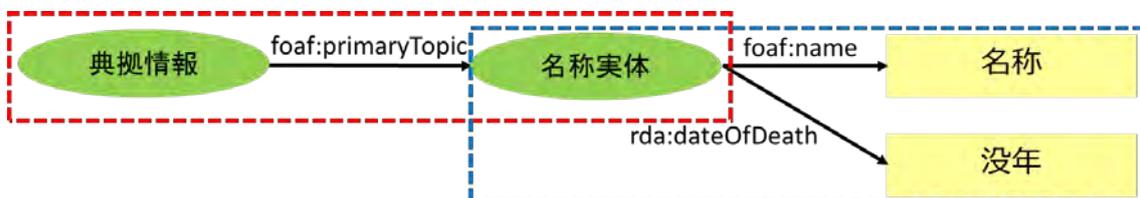


図 13 名称と没年を表現するRDFグラフ例

図13では、「名称実体」を介してトリプルが連結しています。赤い点枠線で囲まれたトリプルは、「○○(典拠情報)のおもなトピック(foaf:primaryTopic)は、××(名称実体)である。」と表現できます。「foaf:primaryTopic」は、「典拠情報」と「名称実体」を結びつけるための語彙(述語)です。つまり、この典拠データが誰(実体)に関するものなのかを表しています。ここでは、「名称実体」は目的語に当たります。

一方、青い点枠線で囲まれた二つのトリプルでは、「名称実体」は主語にあたり、それぞれ「○○(名称実体)

の名称(foaf:name)は、××である。」「○○(名称実体)の没年(rda:dateOfDeath)は、××年である。」と表現できます。

この○○や××をそれぞれ変数に置き換えたグラフが図14です。

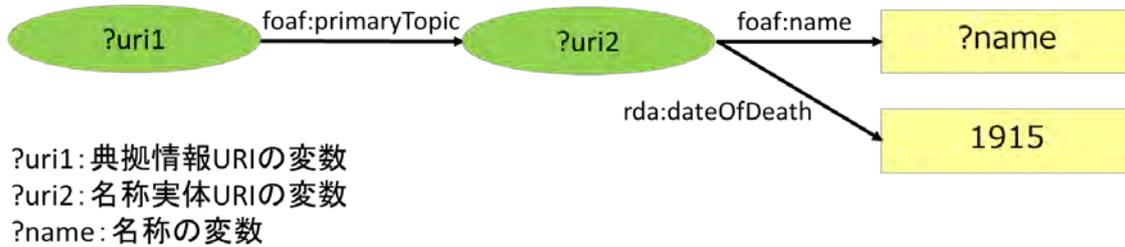


図14 変数に置き換えた RDF グラフ例

図13と同様に、図14のトリプルはそれぞれ下記のように表現できます。

「?uri1のおもなトピック(foaf:primaryTopic)は、?uri2である。」

「?uri2の名称(foaf:name)は、?nameである。」

「?uri2の没年(rda:dateOfDeath)は、1915年である。」

知りたいのは、著者名(名称)を示す変数「?name」の値と、典拠データ(典拠情報)のURIを示す変数「?uri1」です。そのため、上記の3パターンのトリプルが含まれるRDFグラフを検索するクエリが必要です(図15)。

「rda:」「foaf:」を定義  
 述語のURI <http://RDVocab.info/ElementsGr2/>の代わりに「rda:」  
 <http://xmlns.com/foaf/0.1/>の代わりに「foaf:」をという接頭辞をそれぞれ使いますよ。

取得したい変数を指定 →  
 典拠データのURI(「?uri1」)と  
 名称(「?name」)の値が  
 知りたいです。

```

PREFIX rda: <http://RDVocab.info/ElementsGr2/>
PREFIX foaf: <http://xmlns.com/foaf/0.1/>
SELECT ?uri1 ?name
WHERE {
  ?uri1 foaf:primaryTopic ?uri2.
  ?uri2 foaf:name ?name.
  ?uri2 rda:dateOfDeath "1915".
}
    
```

クエリの条件を指定  
 主語「?uri1」、述語「foaf:primaryTopic」、目的語「?uri2」  
 主語「?uri2」、述語「foaf:name」、目的語「?name」  
 主語「?uri2」、述語「rda:dateOfDeath」、目的語「1915」  
 の3つの条件に該当するトリプルを探したいです。

図15 例3のクエリ(解説付き)

この結果、たとえば、1915年に亡くなった著者として、初代外務大臣の井上馨(名称)がいることがわかり、合わせてその典拠データのURI(<http://id.ndl.go.jp/auth/ndlna/00423610>)も取得できます。このクエリでは、没年の数字を変えたり、述語の没年(rda:dateOfDeath)を職業(rda:biographicalInformation)や専攻(rda:fieldOfActivityOfThePerson)に代えることで、さまざまな検索ができます。

ご紹介したクエリ例は、いずれもシンプルなものです。ほかにも、「生年順」「典拠データの作成日順」等検索結果の並び順を指定したり(「ORDER BY」)、検索結果の件数をカウントする(「COUNT」)ことができます。さらに、検索結果をグループごとに集計する(「GROUP BY」と「COUNT」)等、複数の条件をかけあわせることもできます。たとえば、「『インターネット』の関連語にどのようなものがあるか調べたい。」「『を見よ参照』をもつ典拠データの件数が知りたい。」「2000年以降に生まれた人物の典拠データが年ごとに何件あるか、生年が新しい順に結果を取得したい。」といった、検索画面ではできないさまざまな条件を自由に設定できます[13]。ぜひ、試してみてください。なお、Web NDL Authoritiesの「[SPARQLについて](#)」でも、いろいろなクエリ例をご紹介します。合わせてご覧ください。

## 【おわりに】

Web NDL Authoritiesの検索画面の利用者は、おもに人間を想定しています。ですが、SPARQLによる検索の場合、人間だけでなく、コンピュータ等でも利用できるため、典拠データを活用したさまざまなウェブサービスやアプリケーションが新たに生まれる可能性があります。国立国会図書館では、典拠データの利活用を促進するために、SPARQLによる検索のようなウェブ環境で使いやすい手段をご提供するとともに、本誌今号でもご紹介しているとおり、典拠データの拡充も行っています。これからも典拠データそのものの充実と、使いやすいサービスの提供の二本柱で取り組んでいきます。

最後にひとつお願いです。「Web NDL AuthoritiesのSPARQLを使ってこんなアプリやサービスを作ってみた」という方は、ニューズレター担当([bib-news@ndl.go.jp](mailto:bib-news@ndl.go.jp))までぜひお知らせください。

柴田 洋子

(しばた ようこ 収集・書誌調整課)

[1] クエリとは、コンピュータ(データベース)に対するデータの検索や更新等の処理を要求することです。「クエリ言語」は、「問い合わせ言語」と呼ぶこともあります。

[2] 2008年1月にSPARQL1.0が、そして2013年3月にSPARQL1.1がそれぞれW3C勧告となりました。各文書の日本語訳は、以下のW3Cのページで公開されており、検索することができます。

W3C Translations

<http://www.w3.org/Consortium/Translation/>, (参照 2015-05-01).

[3] Web NDL AuthoritiesはSPARQL1.0に対応しているため、本稿では、おもにWeb NDL Authoritiesで利用できるクエリをご紹介します。

Web NDL AuthoritiesのSPARQLの詳細は下記の仕様書をご覧ください。

Web NDL Authorities SPARQL API仕様書(第1.0版)(PDF: 469KB)

<http://iss.ndl.go.jp/ndla/wp-content/uploads/2014/03/api-spec.pdf>, (参照 2015-05-01).

下記のページでも概要とクエリ例を紹介しています。

SPARQLについて

<http://iss.ndl.go.jp/ndla/sparql/>, (参照 2015-05-01).

検索画面での検索方法については、ヘルプをご覧ください。

ヘルプ

<http://iss.ndl.go.jp/ndla/help/>, (参照 2015-05-01).

[4] 本稿のクエリは、説明の便宜上複数の改行を設けていますが、改行の位置による処理結果の違いはありません。

[5] Web NDL Authorities では、仕様上、一度に取得できる結果の上限があらかじめ 100 件に設定されています。詳細は、[3]の [API 仕様書](#) をご覧ください。

[6] URL は、URI の一種のため、本稿では URL と URI をほぼ同義で使っています。

[7] Web NDL Authorities の詳細表示画面)では、「標目」を表す語彙が別に表示されています(後出[8]参照)。そのため、正確に説明すると、「ラベルが『図書館』である典拠データ」となりますが、本稿では、説明をわかりやすくするために「ラベル」も「標目」と表現しています。後出の例 1、例 2 の表現も同様です。

[8] Web NDL Authorities の典拠データで使用している各述語(rdfs:label 等)については、詳細表示画面の項目名または以下をご覧ください。

・ RDF モデルについて > 4. RDF/XML 形式によるフォーマット仕様

<http://iss.ndl.go.jp/ndla/model/#4>, (参照 2015-05-01).

[9] 変数の?に続く文字列は任意であり、「?uri」のように設定することもできます。ただし、Web NDL Authorities で使用できる文字は、英数字です。仮名漢字は用いることができません。詳細は、[3]の [API 仕様書](#) をご覧ください。

[10] Turtle は、プルダウンに含まれていないためフォームでは選択できませんが、表 2 のとおり、output パラメータの値として指定することができます。

[11] 正規表現とは、文字列の集合を一つの形式で表現する方法です。例は部分一致検索ですが、前方一致、後方一致、英字の大文字小文字を区別しない検索等もできます。Web NDL Authorities で使える正規表現の詳細は、[3]の [API 仕様書](#) をご覧ください。

[12] Web NDL Authorities の典拠データが具体的にどのような RDF グラフになっているか知りたい場合は、実際に典拠データを何件か検索し、任意の表示形式で確認してみたり、ウェブ上で公開されている RDF グラフの視覚化ツール等を試してみたりしてください。

[13] 前述のとおり、Web NDL Authorities では SPARQL1.0 に対応していますが、一部の SPARQL1.1 で導入された機能も利用できます。また、リンクしているクエリの表記は一例です。詳細は、[3]の [API 仕様書](#) をご覧ください。

## コラム:おおきなほんのはなし

A 係長： 急いで整理してほしい本があるから、書誌データ入力用のパソコンを作業台に持ってきて。

B 子さん： え？いつもは本を自分の席に持ってきて入力しますよね？どうしてですか？

A 係長： 見ればわかるわよ。

B 子さん： なんですか、この大きな本は！！作業台から、はみ出しそうじゃないですか！

A 係長： 有名な「バーズ・オブ・アメリカ(The birds of America)」の複製よ。

B 子さん： バーズ・オブ・アメリカ？アメリカの鳥類…ってなんですか？

A 係長： アメリカの画家で鳥類研究家の [ジョン・ジェームズ・オーデュボン\(John James Audubon, 1785-1851\)](#) がほぼ実物大で描いた北米の鳥の本よ。国立国会図書館では [1970年代に刊行された複製](#) と、[1985年に刊行された複製](#) を所蔵していて、所蔵している中で最大の本なのよ。今回来たこの本は、新たに日本の書店が限定100部で復刻したものなの。

B 子さん： それにしても大きいですねえ。定規では足りないから、メジャーを使って測ってみます。…縦の長さが102cm。1メートルもありますよ！重さはどのくらいあるんでしょう？

A 係長： 残念ながらここには量りはないわね。書誌データに重さは記録しないけど、この本は重さがわかっている方が親切な気もするわね。こんなに大きな本を、何日も作業台に置いておけないでしょう？本当は当館で受け入れた順に書誌データを作成するのだけど、この本は特別にすぐ作業して書庫に収めてしまおうと思って。

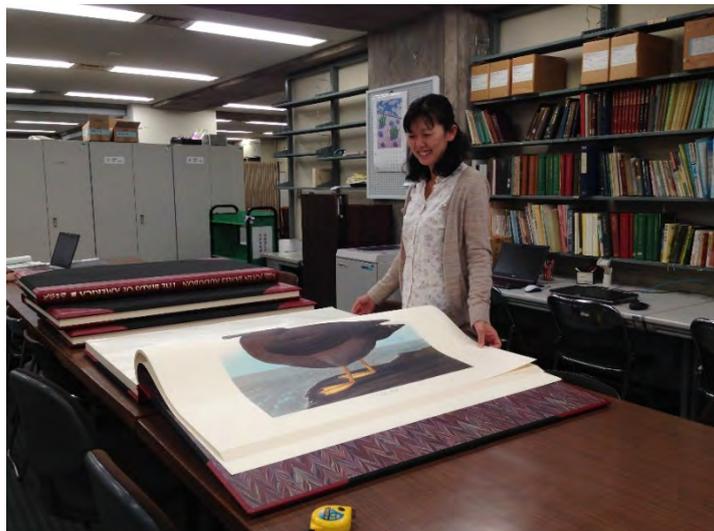
B 子さん： 全部で4巻ありますが、そんなにたくさんの鳥が描かれているのでしょうか？

A 係長： 図版が435枚あるみたいよ。別に付いている小さめの本が索引(plate information and index)になっていて、これで図版がどこに載っているか確認できるみたいね。

B 子さん： Dusky Albatros(ススイロアホウドリ)だと図版番号が407で、4巻目に載っているということがわかりますね。本編のほうで絵を見てみよう。…う、重くて表紙がめくれません。

A 係長： 一人でめくるのは無理みたいね。じゃあ、そっちを持って。慎重にね。せーの。

B 子さん： わあ、これはすごいですね。鳥がリアルに描かれていて、色もととてもきれい。



書誌データ作成作業の様子

**A 係長：** 本に挟まっていた書店のパフレットによると、オリジナル図版を8千万画素のカメラで撮影、デジタル画像処理を施し、特別に漉いた紙に印刷したそうよ。

**B 子さん：** だからきれいなんですね。

**A 係長：** 原書は、ペリーが来航した際に将軍に贈られたらしいわ[1]。また、2010年にはオークションで、印刷された書籍としては当時の最高額で落札されたそうよ[2]。

**B 子さん：** へえ～、すごい本なんですね。複製でも見たい人はたくさんいそうですね[3]。でも、閲覧したい人が図書館にいらしても、ご覧になるのも重くて大変そうですね。

**A 係長：** そうね、運ぶのにもページをめくるのにも、人手がいるでしょうね。じゃあ、書誌データ入力に必要な箇所の確認をすませてしましましょう。

**B 子さん：** 奥付を確認しなくちゃ…、あれ、1巻目にはないですね。じゃあ、最後の4巻目を見てみて、あ、最終ページにちゃんとありました。あまりの重さに確認を怠るところでした、アブナイアブナイ。それにしても、本の整理がここまで力仕事だとは。通りがかりの職員がみんな立ち止まって見ていきますね。

**A 係長：** そりゃ、本とは思えない大きさだもの、びっくりするわ。

**B 子さん：** なんだか自分が小人になった気分です。付属の本でも縦の長さが37cm、当館の基準ではこれでも大型本の扱いですよ。小さいと思っていましたが、本編が巨大過ぎて小さく見えていただけだったんですね。…[本編](#)と[付属の本](#)のデータ入力、終わりました。

**A 係長：** おつかれさま。

**B 子さん：** めったにお目にかかれない本の整理ができて貴重な体験でした。では力自慢の人を呼んで、台車で書庫に運んでもらいます。

古賀 香織

(こが かおり 国内資料課)

[1] 桑原信. 新収オーダボン『アメリカの鳥』. 国立国会図書館月報. 1972. 11, (140), p. 14-15.

[2] オーデュボンの『アメリカの鳥類』が印刷された書籍としては史上最高額で落札される. カレントアウェアネス-R. Posted 2010年12月9日, <http://current.ndl.go.jp/node/17251>, (参照 2015-05-12).

[3] 明星大学所蔵の原本が、以下で公開されています。

明星大学図書館. <http://birdsofamerica.meisei-u.ac.jp/>, (参照 2015-05-12).

## お知らせ：全国書誌データ・レファレンス協同データベース利活用研修会を開催します

学校図書館や公共図書館などの職員を対象に、全国書誌データ・レファレンス協同データベース利活用研修会を開催します。

前年度まで個別に行っていた、[書誌データ利活用説明会](#)(収集書誌部収集・書誌調整課主催)と[レファレンス協同データベース事業説明会](#)(関西館図書館協力課主催)を、今回初めて合同で開催します [1]。

研修会は、講義とワークショップの2部構成で行います。第1部では、全国書誌データの利活用やレファレンス協同データベースの参加に必要な情報や基本的な使い方をご紹介します。第2部では参加者の方々に、全国書誌データを活用したリストの作成や[レファレンス協同データベースへの事例登録](#)を、実際に行っていただきます。また、全国書誌データやレファレンス協同データベースを各図書館でどのように活用できるかを、一緒に考えます。終了後には、参加者同士で情報交換を行えるよう、交流会を行う予定です。

目録や文献リストの作成などで全国書誌データを利用したい方や、レファレンス協同データベースに興味がある未参加館の方などに、おすすめの研修です。ぜひご参加ください。

### <研修会の概要>

- ・日時および会場

#### ○関西館会場

日時：平成27年7月24日(金)13時～17時(12時30分から受付開始)

会場：国立国会図書館関西館 1階第1研修室

申込締切：平成27年7月17日(金)

#### ○東京本館会場

日時：平成27年8月21日(金)13時～17時(12時30分から受付開始)

会場：国立国会図書館東京本館 新館3階研修室

申込締切：平成27年8月14日(金)

### ※定員、各会場30名

- ・おもな対象者

全国書誌データの利活用またはレファレンス協同データベース事業への参加に関心のある公共図書館、学校図書館等の職員を、おもな対象とします。

- ・内容詳細および申込方法

以下のレファレンス協同データベース事業説明会のページをご覧ください。

[http://crd.ndl.go.jp/jp/library/guidance\\_02.html](http://crd.ndl.go.jp/jp/library/guidance_02.html)

・本件に関するお問い合わせ先

国立国会図書館 関西館図書館協力課 協力ネットワーク係

電話：0774-98-1475 FAX：0774-94-9117 E-Mail：[info-crd@ndl.go.jp](mailto:info-crd@ndl.go.jp)

(収集・書誌調整課)

[1] 前年度のそれぞれの説明会については、以下をご覧ください。

・書誌データ利活用説明会

収集・書誌調整課. 「平成26年度書誌データ利活用説明会」開催報告. NDL 書誌情報ニュースレター. 2014年3号(通号30号),

[http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo\\_8747102\\_po\\_2014\\_3.pdf?contentNo=1#page=17](http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_8747102_po_2014_3.pdf?contentNo=1#page=17), (参照 2015-06-24).

・レファレンス協同データベース事業説明会

図書館協力課. “レファレンス協同データベース事業説明会”.

<http://crd.ndl.go.jp/jp/library/guidance.html>, (参照 2015-05-12).

## お知らせ:書誌データ水準を公表しました

2015年6月、国立国会図書館が作成する書誌データの概要を、公表しました。「[書誌データ水準](#)」のページをご覧ください。

このページでは、書誌データ作成における基本的な考え方や基本ツールを紹介し、資料の特徴、提供の目的などによって細分化した区分(整理区分)ごとの書誌事項の詳細度などを掲載しています。

また、書誌データの利用に関するページも合わせてご覧ください。

- [書誌情報提供サービス](#)
- [全国書誌データ提供](#)

(収集・書誌調整課)

## お知らせ:平成 26 年度書誌調整連絡会議の概要を掲載しました

2015年2月27日に開催した平成26年度書誌調整連絡会議の概要を当館ホームページの「[書誌調整連絡会議](#)」のページに掲載しました。

会議で使用した資料は、[本誌前号](#)で読者のみなさまにいち早くご覧いただきましたが、「[書誌調整連絡会議](#)」のページにも、会議の概要とともに、改めて掲載しています。

今回の会議は、「アクセス・ポイントの可能性：新しい『日本目録規則』が目指すもの」をテーマとし、統制されたアクセス・ポイント・データの活用や新しい目録規則を適用したデータ作成の可能性について、3人の研究者からご発表をいただきました。当館から行った新しい『日本目録規則』の策定作業の報告と、出席者による意見交換と合わせて、概要をご覧いただけます。

また、書誌調整連絡会議は、今回でちょうど15回目の開催となりました。「[書誌調整連絡会議](#)」のページには、過去15回の会議のテーマやプログラム、出席者等を「書誌調整連絡会議 開催一覧」としてまとめています。こちらも合わせてご覧ください。

(収集・書誌調整課)

## お知らせ:ISSN 日本センターが ROAD への登録作業を開始しました

[本誌前号](#)の ISSN センター長会議報告でお知らせしましたとおり、[ROAD\(Directory of Open Access scholarly Resources\)](#)は2014年12月に本格稼働しました。ISSN 日本センターでは、2015年3月から ROAD への登録作業を開始しました。詳しくは、「[ISSN 日本センター](#)」のページおよびカレントアウェアネス-R の記事「[ISSN 日本センター、2015年3月から ROAD への登録作業を開始](#)」をご覧ください。

(逐次刊行物・特別資料課)

## お知らせ:平成 26 年度書誌データ統計を掲載しました

平成 26 年度書誌データ統計を、「[統計からみた書誌データ \(平成 23 年度以降\)](#)」のページに掲載しました。内容は、資料種別ごとの書誌データ作成件数、雑誌記事索引データの作成件数、典拠データの提供件数および JAPAN/MARC 提供件数です。

また、以下のページに書誌データ作成の所要日数なども掲載していますので、ご覧ください。

- [平成 26 年度サービス実績](#)

(収集・書誌調整課)

## 掲載情報紹介

2015年3月26日～6月25日に、国立国会図書館ホームページに掲載した書誌情報に関するコンテンツをご紹介します。

- ・ [「書誌データの基本方針と書誌調整」](#) [「書誌データ作成ツール」](#) に目次ページを新設しました。  
(掲載日：6月24日)
- ・ [「書誌データ水準」](#) についてのページを新設しました。  
(掲載日：6月24日)
- ・ [「全国書誌データ提供」](#) のページを更新しました。  
(掲載日：6月24日)
- ・ [Unicode 外の文字リスト](#) を更新しました。  
(掲載日：6月24日)
- ・ [「統計からみた書誌データ\(平成23年度以降\)」](#) を更新しました。  
(掲載日：6月24日)
- ・ [雑誌記事索引採録誌一覧](#) を更新しました。  
(掲載日：5月28日)
- ・ [国内発行オンラインジャーナルリスト](#) を更新しました。平成27年度から書式を変更しました。  
(掲載日：4月20日)
- ・ [平成26年度書誌調整連絡会議報告\(概要\)と過去の会議一覧](#) を掲載しました。  
(掲載日：4月30日)
- ・ [「JAPAN/MARC MARC21 フォーマットマニュアル単行・逐次刊行資料編」](#) に、「653 非統制件名」フィールドの規定を追加しました。  
(掲載日：4月1日)
- ・ [「国立国会図書館典拠データ提供・検索サービス\(Web NDL Authorities\)」](#) のページを更新しました。  
(掲載日：4月1日)
- ・ [「国立国会図書館書誌データ対応システム一覧」](#) を掲載しました。  
(掲載日：4月1日)

**NDL 書誌情報ニュースレター(年4回刊)**

2015年2号(通号33号) 2015年6月26日発行

編集・発行 国立国会図書館収集書誌部

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1

E-mail: [bib-news@ndl.go.jp](mailto:bib-news@ndl.go.jp)(ニュースレター編集担当)